

察が合同で、10月18日に防犯連絡会議を開催し、「防犯組合年末一斉パトロール」や、防犯組合支部長、自治会長、防犯指導員、防犯連絡所員を対象とする「防犯合同研修会」の実施などを決定しました。

「まめばん」や専用車両の巡回で犯罪抑止も

市では、事件・事故の発生状況、人口・世帯数などから判断し、本来であれば交番設置が望ましい南部地区（みずき一丁目）に、交番に準じた施設として「野田市南部安全安心ステーション」、通称「まめばん」を、昨年10月1日に開設し、地域防犯の拠点としました。



青色回転灯搭載車で市内全域をパトロール

まめばんでは、防犯推進員（警察官経験者）が、14時から23時まで毎日勤務し、立番・在所警戒（事件・事故防止、交通指導など）を行うほか、事件や事故が発生した際の被害の拡大防止、地域住民からの防犯相談、迷子の保護、警察や地域の自主防犯組織との連携などを行

無理なく継続できる あいさつや声かけから



自治会長
鹿野 豊田 昇さん
(防犯組合支部長)

防犯パトロール用の帽子をかぶり、あいさつを交わしながら、散歩するのが日課です。時には、見慣れない人に声をかけた後、道路で夢中になって遊んでいる子どもを注意したりもします。

自治会でも、自動車や自転車などを利用する際に、「防犯パトロール中」の札を付けるなど、すぐにできることから取り組み

つています。

さらに、市では、子どもたちの下校時刻にあわせて14時から19時まで、週5日間（田・回・園・年末年始を除く）、防犯推進員による青色回転灯を搭載した防犯パトロール車両2台による、機動力を生かしたパトロール活動も市内全域で実施しています。

一人ひとりが 防犯対策の見直しを

犯罪から身を守るためには、一人ひとりが、もう一度、防犯対策を見直すことが大切です。

▼近所同士で「声かけ」を

空き巣や自動車窃盗、痴漢など、街の中で発生する犯罪の多くは「機会犯罪」と呼ばれ、機会を狙って犯罪が行われるものです。

逮捕された空き巣犯へのアンケート調査（平成8年の警察データ）では、犯行をあきらめる理由の第一位は「近所の人による声かけ」で、全体の62・9パーセントを占めます。

また、効果もとても高い防犯方法を「街や近所で守りを固めること」と指摘しています。

住民同士が声をかけ合う街になれば、機会犯罪は減少しますので、声かけを実践してください。

▼万全な鍵で侵入盗を撃退
侵入に5分以上かかるような防

犯罪を起こさせない 雰囲気づくりを



自治会長
羽貫 3 木間 真由美さん
(防犯組合支部長)

私の自治会では、班ごとに交代で行う「防犯パトロール」と、小・中学生の下校時刻に合わせて行う「見守り活動」の二つを実施しています。有志で始めた活動ですが、今では全世帯が参加する取り組みとなりました。

また、玄関の外灯の夜間点灯や、道であった人への声かけ、散歩時の防犯パトロール腕章の着用などを呼びかけて、防犯意識の向上に努めています。

犯対策で、約7割の侵入犯が侵入をあきらめます。侵入盗に対する防犯の基本は、一つのドアに2つの鍵を付けることです。防犯性能の高い鍵を使うと効果的です。

また、玄関からの帰りは要注意
また、金融機関でお金をおろした人などを狙う「途中ねらい」が増えています。

また、空き巣の手法でもっとも多いのが「ガラス破り」による窓からの侵入です。「防犯合わせガラス」への取り換えも効果的ですが、ガラスを割れにくくする「防犯フィルム」を貼る方法もあります。

親切そうに声をかけたり、足元にお金をばらまいたりして、気をとられた一瞬のすきに、現金やキャッシュカードなどを奪います。

▼手荷物は車道の反対側に
バイクで背後から近づき、かばんなどを奪い去る「ひったくり」は、主に女性や高齢者が狙われます。バッグなどの手荷物は、車道と反対側の手に持ち、多少遠回り

金融機関からの帰りに声をかけられたら、荷物をしっかり持つなど、特に注意が必要です。

【問合せ】市民生活課